

特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

Annual Report 2023

厳しさが増すひとり親と子どもたちの命を守った活動

2023年度 活動報告



待ったなしのひとり親家庭への支援を力の限り続けてまいります。

コロナ後、物価高騰が続き、ひとり親家庭の生活困難がさらに深刻さを増しております。お米を買えない家庭、子どもにお弁当を持たせるために親が昼食を抜く家庭、子どもが不登校で思うように親が働けない家庭…団体には毎日のように助けを求める声が届いています。

そうした状況を踏まえ、2023年度は、個人・企業のご寄付とご協力のもと、食料支援ほっとあんしん便を、北海道沖縄を除く全国のひとり親世帯に毎月約3000世帯、年間のべ3万5000世帯に送ることができました。

さらに進学時期の準備ができない世帯もあることから、新入学お祝い金事業として、1378人の子どもたちに新入学お祝い金を、そしてランドセルも88人にお贈りすることができました。

2021年から続く東京都の委託事業「東京都ひとり親家庭支援センター」は軌道に乗り、法律相談、就業相談等とともに各種セミナーも応募が殺到し、定員以上にお受けして支援をしております。

就労支援については、エンパワメントとスキル支援を両立させた手法を定着させてきました。

またひとり親家庭への施策をよりよくするために、新しくできたこども家庭庁に働きかけを行い、こどもの貧困解消法の成立をめざし、活動いたしました。

さらに、33団体が加盟する「ひとり親家庭サポート団体全国協議会」をNPO法人化し、その事務局をサポートしました。

昨年1年間で全体では、10万人を超える14万2144人に直接支援を行い、また中間支援団体としては74団体を支援いたしました。

団体としての使命が拡大していったまさにそのときに、しんぐるまざあず・ふぉーらむの会計不正が発覚したことは、痛恨の極みです。改めて、これまでこの団体を支えて下さった寄付者のみなさま、関係者のみなさまに深くお詫び申し上げます。二度とこのようなことを起こさないように第三者調査委員会を立ち上げ、その報告と提言を基に会計の強化を行うと同時に、職員とともに団体の基盤強化の取り組みを進めております。

2023年度のアニュアルレポートをお届けします。ひとり親と子どもたちのための事業を続けた記録です。

これからも、団体の基盤強化に取り組むとともに、待ったなしのひとり親と子どもたちの支援を力の限り行ってまいります。

特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ
理事長 赤石千衣子



全国のひとり親とその子どもたち

142,144人

に支援を届けました!

しんぐるまざあず・ふぉーらむは
5つの事業の柱を通じて
「シングルマザーと子どもたちが生き生き暮らせる社会」
の実現を目指しています!

5つの柱

就労支援

企業と連携して、オンラインキャリア支援プログラム「未来への扉」「明日に花咲く」の2講座を開講。独自の就労・転職支援講座「ひろがれ未来塾」も展開しました。

「きらりチャレンジ」では中卒のシングルマザーを対象に高卒認定試験の受験料などを支援。オンラインでキャリアコンサルタントとつながる「キャリア相談」も始めました。

東京都の委託で「東京都ひとり親家庭支援センターはあと」を運営。都内在住のひとり親を対象に相談員が就業相談や生活相談に乗り、就職・転職活動や就職後のアフターフォローなども手がけています。



生活支援

定期的な食料支援「ほっとあんしん便」は、年間のべ3万5300世帯に米や食品、雑貨をパッケージで届けました。子どもたちの入学・進学時の経済的な負担を軽減するため、「新入学お祝い金」を1378人に贈りました。この事業の一環として主に小学校新入学の子どもたちには企業のご協力によりランドセルもプレゼントしています。

経済的事情による体験格差を埋めるため、ボランティアが親子の野外活動をサポートする「親子イベント」、出版社から寄贈された児童書や絵本を贈る「マイ・ブック・プレゼント」にも取り組んでいます。



相談支援

同じ立場のシングルマザー同士が、ファシリテーターがいる安全安心な場で交流するグループ相談会（ママカフェ）をオンラインと対面で展開。ママカフェで活躍するファシリテーターの養成講座も開いています。

週2回の電話相談やメール相談には約1900件の相談が寄せられました。コロナ後の物価高などによる生活困窮の訴えが多く、深刻なケースには緊急で食料やオムツ、ミルクなどの支援物資を送っています。

相談希望者に事前に聴き取りをして弁護士につなぐ形で、無料法律相談も実施しました。



調査・政策提言・情報発信

食料支援の申込者やメールマガジン会員を対象に、ひとり親の生活就労調査を行い、物価高が生活に与えている影響、就労抑制の状況などを明らかにしました。調査結果を基に、子どもの貧困対策推進議員連盟などに働きかけ、児童扶養手当の増額や養育費の立て替え払いなどを求めました。

離婚後の子どもの養育に関し、理事長の赤石が法制審議会で委員として発言。国会議員やメディア向け記者会見で法改正の懸念点を訴えました。



他団体支援

ひとり親と子どもたちを支える全国の団体に、「だいいょうぶだよ!基金」から助成金を拠出しています。能登半島地震の被災地で活動する団体向けの臨時募集も行いました。

こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」で、中間支援団体として、全国のこども食堂やこども宅食、フードパントリーなどの事業を行う団体に資金を助成しました。

全国のひとり親支援団体が加盟する「シングルマザーサポート団体全国協議会」の法人化に向け、事務局をサポートしました。





食料支援（定期）

ほっとあんしん便

2020年度にコロナ禍を受けて始めた食料支援を、2023年度は「ほっとあんしん便」と名付けて展開しました。

企業・個人からの寄付を基に、物価高騰などから食料の購入に困難を抱えているひとり親家庭に米5キロと乾麺やレトルトパック、ルーなどの食品、菓子、雑貨などを詰めた支援パッケージを送付。茨城県つくばみらい市からは、ふるナビによる「ふるさと納税」の返礼品のお米を、納税者の方のご厚意によりご寄付いただきました。

毎月（1850世帯）、隔月（1625世帯）、3ヶ月に1回（822世帯）の3コースに分け、年間のべ3万5300世帯に支援を届けました。

学校給食がなく、家庭の食費がかさむ夏休みには米を10キロに増量しました（7月配送分）。クリスマスの靴下やコスメ、お正月のお餅ときなこ（12月）、ひな祭りのちらし寿司の素（3月）など、季節を意識した内容も好評でした。



ほっと通信

2023年5月に発刊した4ページの月刊通信です。ほっとあんしん便に同梱して届けました。一方通行ではなく双方向のつながりのある通信を目指し、子育てに関する話題や節約の工夫などを掲載。「ひとりじゃない」と感じて、励まし合う投稿が目立ちました。児童扶養手当や高等学校修学支援新制度などの最新情報も掲載しました。

フード・フォー・キッズ（FFK）

子どもが3人以上いる多子世帯を対象に、ニュースキンとセカンドハーベスト・ジャパンの協力による「フード・フォー・キッズ2023」を通じた食料支援を行いました。2023年5月～2024年4月まで2か月に1回計6回、のべ1800世帯に食料パッケージをお送りしました。

入・発送、当座の現金がないなど特別な場合のみ現金給付も行いました。2023年度は100世帯（約300人）を支援しました。

食料支援（緊急）

「明日食べるものがない」「赤ちゃんのおむつやミルクがない」などの緊急の相談に対応し、宅配便で米や寄贈食品を送りました。おむつやミルクはアマゾンのサイトを利用して購

新入学お祝い金

子どもの入学時は、制服や指定のかばん・靴、学用品など準備に多額の費用がかかる一方、ひとり親の多くが貯蓄を出来ない状況にあります。ひとり親家庭の子どもたちが安心して進学できるように、「おめでとう」の気持ちも込めて、2015年から「新入学お祝い金」を贈っています。

2024年3月、全国のひとり親世帯の子ども1378人に新入学お祝い金を支給しました。内訳は小学生（1万5000円）208人、中学生（3万円）431人、高校生（5万円）484人、大

学生（4万円）177人、専門学校生（4万円）78人。児童扶養手当全部支給世帯や住民税非課税世帯を中心に独自基準を設定し、外部委員を招いて対象者を選考しました。1月1日に起きた能登半島地震を受け、被災地特別枠を設けて追加で10人にお祝い金をお贈りしました。

中学・高校入学の応募者全員によびかけ、抽選で200人に、スポーツメーカーからの寄贈品のバックパックをお送りしました。

お祝いランドセル

新入学お祝い金事業の一環で、新たに小学校に入学するひとり親家庭の子どもたちに、ランドセルを贈っています。株式会社協和（ふわり基金）、合同会社RANAOSの協力で、2023年度は88人にランドセルを届けることができました。



マイ・ブック・プレゼント

ひとり親家庭の子どもたちは、経済的に困難な状況にあり、なかなか「自分の本」を買うことができません。それが読書経験や学びの格差につながっています。図書館で借りてきた本ではなく、「自分の本」を持つこと、読むことによる楽しさを知り、考える力・表現する力を身に付けてほしい。そんな思いから、児童書の出版社の在庫をご提供いただき、「マイ・

ブック・プレゼント」を始めました。

2023年12月のクリスマス前に2978人、2024年3月の進学・進級前に948人に児童書や絵本をお届けすることができました。

満足度は高く、100%が「また利用したい」と回答しています。



親子イベント

世帯年収が300万円以下の家庭の子どもたちの3人に1人が、放課後や休日の体験が何もないといいます。経済的な理由で子どもをどこかに連れて行くことができない、時間や人手に余裕がない――。

そんなひとり親と子ども達のために、月1回の親子イベントを開催しました。ひとり親の子どもたちにアウトドア体験を提供する「オレンジフラッグ」と連携し、付き添いのボランティアも充実。子どもたちは初対面でもすぐ友達になり、思いっきり体を動かしました。お母さんたちも子ども達が遊ぶ傍らで、ゆったりと交流できました。2023年度は、のべ261人の親子が参加しました。

【イベントスケジュール】

4月29日	ズーラシア動物園 (横浜市)	親10人、子ども11人
5月28日	高尾山に登ろう (八王子市)	親10人、子ども14人
6月25日	若洲海浜公園で海釣り (江東区)	親9人、子ども12人
7月22日	川遊びとBBQ (埼玉県飯能市)	親17人、子ども19人
8月20日	地引網とBBQ (神奈川県二宮町)	親20人、子ども24人
9月27日	アンデルセン公園 (千葉県船橋市)	親11人、子ども15人
10月22日	御岳山に登ろう (青梅市)	親8人、子ども10人
11月18日	アスレチックありのみコース (千葉縣市川市)	親11人、子ども15人
12月23日	クリスマス会 (新宿区)	親12人、子ども15人
1月27日	アイススケートをしよう (江戸川区)	親9人、子ども15人
2月18日	走り方教室 (埼玉県朝霞市)	親8人、子ども12人

このほか、子どもの職業体験施設「キッザニア」や夏休みクルーズ「海から東京湾を見よう」、金融系の会社訪問など、企業のご寄付やご招待を受け、メールマガジンで親子の参加を募りました。



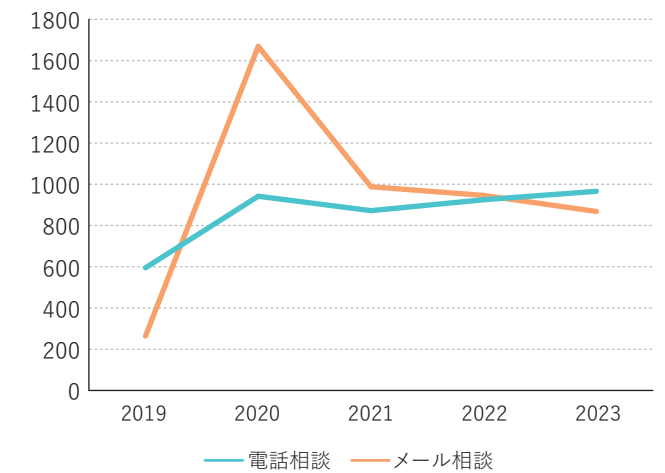
電話相談・メール相談・LINE相談

毎週火曜・木曜の16時～21時、相談員7人がローテーションを組み、電話相談に応じています。メール相談は随時、受け付けています。

新型コロナによる困窮が尾を引く中で、世界情勢の悪化や円安による物価高が追い打ちをかけ、ひとり親から当団体への相談件数は高止まりしています。2023年度は966件の電話相談、838件のメール相談がありました。特に夏休みは学校給食がなく、食費や水光熱費が家計を圧迫。また8月は児童手当、児童扶養手当の支給もないため、生活が極度に困窮した人たちからの相談が多く寄せられました。その都度、当団体の他、民間の食料支援や公的支援制度につなげています。

かつて行政の窓口で嫌な思いをしたなどで、相談しづらい気持ちを持つ人も少なくないため、当団体ではひとり親の気持ちを受け止めつつ、多様な相談内容に答えられるよう努めています。

【電話・メール相談件数】



グループ相談会 (ママカフェ)

しんぐるまざあず・ふぉーらむのファシリテーターが運営する「安全・安心」が保たれた場所で、同じシングルマザーという立場で話し、「ひとりじゃない」という安心感を得ることができる場所として、「ママカフェ」を開いています。

参加者が少ない回もありますが、参加された方の満足度は高く、「同じ立場の人と話せて気持ちが整理できた」「一歩踏み出せた」という感想が寄せられています。

オンラインのママカフェ

毎月第4土曜日に開催。夏、年末の臨時会を含め2023年度は14回開催しました。62人が参加しました。

対面のママカフェ

世田谷区立男女共同センターらぶらす(偶数月の第2土曜日)と、主婦会館(奇数月の第3土曜日)等に当団体からファシリテーターを派遣しています。計52人が参加。死別ママだけを対象にした対面のママカフェも初めて開き、3人が参加しました。

ファシリテーター研修

グループ相談会(ママカフェ)のファシリテーターを養成するための研修を提供しました。支援者育成のためのプログラム「ひとり親家庭サポーター養成講座」の受講生を対象に研修を案内し、2023年度は9人が受講しました。

ママカフェを運営する際の「安全安心のルール」や模擬相談などのワークショップを通して、実践的な知識を身につけました。修了者は、しんぐるまざあず・ふぉーらむや他団体での相談活動に従事しています。

法律相談

企業からのご寄付により、無料法律相談を実施しました。離婚前後に起きる法的な問題に対し、弁護士などから適切なサポートを受けることで課題を早く解決し、生活の安定につながるの狙いです。親権や養育費、面会交流等の子どもにかかわる問題を解決し、経済的・心理的な安定をサポートする側面もあります。メールマガジンや電話相談で相談希望者を募り、対象者を選定。事前の聴き取りを実施した上で、弁護士に紹介したり、相談者自身が弁護士を選定したりします。2023年度は40人が無料の法律相談につながりました。



シングルマザーキャリア支援プログラム 『未来への扉』第9期

世界最大手の化粧品会社ロレアルグループの日本法人「日本ロレアル株式会社」と連携し、2016年に始まったキャリア支援プログラムも9期目を迎えました。

2023年は9月10日～12月17日まで全10回の講座をオンラインで開催（修了式のみ対面）。全国各地からシングルマザー22人が参加しました。うち「在職中」が16人で、副業や転職などを考えている人が多かったのが、今年度の特徴です。受講後のアンケートでは「転職した」が3人、「転職活動を始めた」が12人と、講座に背中を押されて行動に移した人

が目立ちました。

プログラムはキャリアアップ、キャリアデザイン、ビジネススキルアップの各講座に加え、メイクの基本から学ぶ「身だしなみ講座」など、自尊感情やモチベーションが上がる構成で、半数超が「仕事の方向性や、やりたいことが見つかった」、3割の方が「子どもや家族との関係がよくなった」と回答しました。並行してPCスキルなどを学べるe-ラーニング、個別キャリア相談も提供しました。



『ひろがれ未来塾』

しんぐるまざあず・ふぉーらむが、企業からの資金提供を受け、自主事業として取り組んだ就労支援です。

目的はコロナ禍で離職したり、就業時間が減ったりしたひとり親に初歩からパソコン操作を教えるスキルアップ訓練を行い、エンパワメント講座で自己尊重感を高めながら、より有利な就職へと導くこと。IT事務人材（株式会社スタッフサービス）、コールセンター（トランスコスモス株式会社）、家事代行（Casy株式会社）の各企業と連携しました。

27人が参加しました。5月に開講し、11月までの半年間に、コミュニケーション、キャリアプラン、ビジネスマナー、マネーライフプラン、身だしなみを学ぶ共通講座を受講。パソコン操作の基礎やWord、Excelを学ぶ集合研修と、自宅で学ぶオンライン講座、e-ラーニングを並行して進め、IT事務に必要なMOS Excel検定の合格を目指しました。

しんぐるまざあず・ふぉーらむの就労支援の特徴はスキル支援だけでなくエンパワメントを重視するとともに、メンターが伴走支援をすることです。スタッフや10人のメンターが、学習の進め方をはじめ、子育て、生活面での相談に乗り、途中で脱落しないように支えました。結果、16人が検定に合格し、4人が正社員、1人が契約社員の職を得ることができました。

のためのテキスト代を補助し、自治体による教育費支援事業についての情報提供も行いました。高卒認定試験に実績のある一般社団法人栃木県若年者支援機構の協力を得て、学習の進め方についての相談や通信教育も提供しました。2023年度は21人から問い合わせがあり、5人を支援、3人が合格しました。

高卒認定試験サポート 『きらりチャレンジ』

家庭の事情で高校進学や卒業をあきらめたり、妊娠・出産でやむなく退学したり。11%のシングルマザーの最終学歴が中卒です。そして高卒資格がないために就職・転職が難しく、収入が低い。

こうした状況を改善しようと、2022年から、高等学校卒業程度認定試験の受験を応援しています。受験料を支給、勉強

オンラインキャリア支援プログラム 「明日に花咲く」

東京スター銀行としんぐるまざあず・ふぉーらむが提携して贈る就労支援プログラムです。5期目の2023年は10月1日～11月26日の隔週日曜日、全5回のオンライン講座を開きました。目標はシングルマザーが生活とキャリアの両面で自分を見つめ、持っている力を十分に発揮できるようにすること。

全国から30人が参加し、コミュニケーションやビジネスマナー、キャリアの棚卸しについて学び、キャリアコンサルタントから丁寧なサポートを受けました。修了式では、受講生それぞれが「3年後、私は……」で始まる未来宣言を読み上げ、幸せを具体化するための「ライフプラン」を作成しました。



キャリア相談

シングルマザーの仕事探しや職場への定着、キャリアアップなどにつなげるため、キャリアコンサルタントによる就労相談をオンラインで実施しました。1人40分の枠で、年3回まで利用できます。3人のキャリアコンサルタントが、のべ74人か

ら相談を受けました。仕事の探し方、履歴書の書き方などを伝えることで就職や転職を後押し。就職活動がうまくいかなかったり、仕事のプランクがある人に自信を持ってもらうよう励まし、必要があれば他の生活支援にもつなげました。

『ひろがれ未来塾』受講生の声

自分の実力、証明できた

『ひろがれ未来塾』を通して様々な分野の勉強が改めて出来て、これから生活する中で意識して生活する、目標を決めて自分の時間を作ることを学びました。

MOS試験資格も取得して自分に自信が付きました。これから就職の際も利用することもできますし、何より自分の実力がある事が証明できたことが一番よかったです。

自分を振り返りポジティブに

『ひろがれ未来塾』で学んだことで、回数はまだ少ないですが、自分で頑張ったと思うように、自分を振り返りポジティブにいられるように考え、受け止め方も変えるように意識しています。会社に出勤するようになり、平日は子どもという時間が短くなったので、先週はアニメのイベントに行き、子どもと楽しむ時間を作りました。

自信取り戻し、自分のペースで

『ひろがれ未来塾』を受講した中で、同じシングルマザーの友達ができることがとても嬉しかったです。子どものことや仕事のことを相談したり、MOS Excel受験の時も学習の進捗など連絡し合い、合格に向けて切磋琢磨してがんばることができました。受験の際はメンターの後押しもとても大きかったです。これからは少しずつ自信を取り戻し、ゆっくりと自分のペースで進んでいこうと思います。

東京都ひとり親家庭支援センター「はあと」(東京都受託事業)

東京都から都ひとり親家庭支援センターの23区分の委託を受け、2021年10月から千代田区飯田橋で2拠点を運営しています。



「はあと」(新都心ビル内)

主にひとり親の生活相談を行っています。生活相談の利用者は9,298件、3,746人。うち、養育費の一般相談は3,566件、1,772人です。また、養育費に詳しい専門家による養育費専門相談は、174人でした。弁護士による離婚前後の法律相談は、311人でした。親子交流(面会交流)支援事業には572件の相談があり、

20家族が第三者機関を利用して交流しました。また、離婚前後の親支援講座(5回)では、離婚にまつわる法制度や離婚前後に使える支援制度、各種手当等の情報提供のほか、子どもの視点から考える親の離婚、子どもの年齢に応じたコミュニケーションについて学ぶ講座等を開催し、のべ89人が参加しました。

「はあと飯田橋」(東京しごとセンター内)

主に就業相談、就業支援を行っています。2023年の就業支援の実績は、就業相談が2,446件、1,642人。求人情数は193件、592人。就業実績は60人でした。のべ890人に就職後のアフターフォローを行いました。また、教育費や家計管理などについて学ぶライフプランセミナーを6回開催し、198人が参加しました。コミュニケーション力や就職活動のノウハウなど、就業に必要な知識・技能を習得する「就業支援講習会」(12回)には182人が参加しました。受講生はパソコンのスキルアップ講座で、Microsoft Office(事務系)の資格取得やAdobe Premiere Pro(web系)の技能取得にもチャレンジしました。

支援者の育成にも力を入れています。相談支援員研修会(10回)には支援業務に携わる354人が参加し、支援現場で活躍される方や専門家から、ひとり親家庭の支援者にとって必要な知識や技術を習得しました。LINEによる相談「はあとライン」は1,092件、916人の利用がありました。各種相談事業では、相談者に寄り添い、傾聴・受容を丁寧に行うとともに、適切な助言や情報提供などの支援を行いました。また、各種セミナーでは幅広いテーマ設定を心がけました。受講者の満足度は高く、セミナー受講をきっかけに相談や支援につながるケースも多くみられました。



情報発信

支援の普及啓発や情報提供のために「はあと通信」を年3回、「はあとメールマガジン」を月2回配信しました。

講演会・講座・セミナー

ひとり親向け自立支援研修(ひとり親向け)

「就労収入がなかなか上がらない中、子どもの教育費をどう貯めたらいいの?」そんな声を受けて、2023年度は家計管理と教育費にしばって、2回のオンラインセミナーを行いました。講師はいずれも、ファイナンシャルプランナーで社会福祉

士の清水香さんです。豊富な実例を挙げて、「大丈夫、あなたも貯められる!」と背中を押してくれる内容に、参加者の100%が「役に立ちそうだ」「まあまあ役に立ちそうだ」と回答するなど、大好評でした。



開催日	内容	参加人数
2023年6月10日	教育費セミナー 「知って安心!子どもにかかるお金、受け取れるお金」	44人
2023年7月1日	ライフプランセミナー 「年1回だけ!『ラクラク家計管理法』教えます」	55人

離婚前後の親支援講座(ひとり親向け)

「離婚したいが、何から進めていいかわからない」「子どもへの影響や経済的なことも心配」。そんな迷いや困難を抱える離婚前後の時期に、当事者が必要な情報を得ることによって適切な社会サービスにつながったり、養育費や面会交流な

どに関して円滑な取決めができるよう促すオンライン講座です。子どものストレスを最小限にとどめ、生活の安定につながる目的もあります。離婚後の共同親権を含む民法改正案への関心が高く、法律セミナーも開催しました。

開催日	内容	講師	参加人数
2023年11月23日	「ひとり親の子育てと子どものころ」	大岡友子さん (武蔵野大学心理臨床センターカウンセラー)	44人
2024年2月22日	法律セミナー 「離婚前後の法律知識」	折井純さん(弁護士)	25人

共同親権オンラインセミナー(ひとり親・支援者向け)

離婚後の共同親権を含む民法改正案の閣議決定を受けて、2024年3月21日、緊急のオンラインセミナーを開きました。講師は弁護士の伊藤和子さん。38人が参加し、法案の内

容で心配な点や、運用に関して具体的に詰めていかなければならない点について詳しい解説を聞きました。

ひとり親家庭サポーター養成講座(支援者向け)

ひとり親家庭の支援に関わる団体や行政職員、地方議員が対象の講座です。ひとり親と子どもたちを、より適切で質の高い相談や支援につなげるためには、支援者の育成や研鑽が不可欠です。2023年9月にオンラインと対面のハイブリッドで、2024年2月にオンラインで、計2回、のべ4日間の講座

を開講しました。130人の受講生が、ひとり親、DV被害者、困難を抱える子どもの支援に携わってきた講師陣や、ひとり親当事者の話を聞き、ひとり親の現状や支援のあり方について学びを深めました。

With Youさいたま「困難を抱えた女性支援事業」

埼玉県男女共同参画推進センターの委託を受け「With Youさいたま」の講座を企画運営しました。何らかの困難や生きづらさを抱えた人たちに前向きな気持ちで日々の生活を送ることができるような情報を得られる機会を提供するのが

ねらいです。女性向けセミナー・グループ相談会「自分らしき発見講座」(6回、のべ79人参加)と、男性向けのグループ相談会(2回、のべ10人参加)を実施しました。



調査

2023年度は会員を対象に、ひとり親家庭就労生活調査を春・夏・冬の3回実施。ひとり親と子どもたちの困窮した生活の状況を明らかにしました。

2023ひとり親家庭就労生活調査

「米を買えない時があった」65%～春調査～

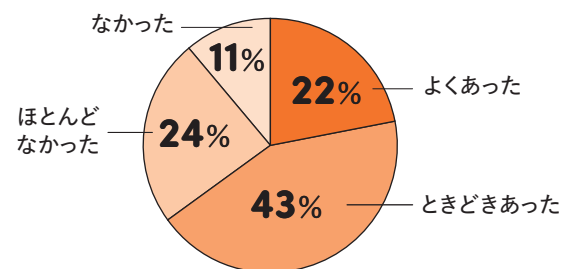
食料支援「ほっとあんしん便」申込者を対象に3月24日～26日、WEBフォームによるアンケートを実施。4307人から回答がありました。

回答者の85%が働いていましたが、暮らし向きが「苦しい」「やや苦しい」を合わせると98%に登りました。

「米を買えない時があった」が65%、「食材（肉・魚）を買えない時があった」87%、「子どもの服や靴を買えない時があった」90%といずれも、これまでの同様の調査より高い数字となりました。コロナ後も、物価高などで依然としてひとり親世帯の家計の状況は厳しいことがわかりました。

子どもに食べさせるために、8割の親が食事を抜いていました。ひとり親の知り合いがいない人も4割にのぼり、孤独・孤立への対策が必要です。

【米を買えなかったことがありますか？(n=4307)】



2023春ひとり親家庭就労生活調査

「昨日、子どもは2食」4割～夏調査～

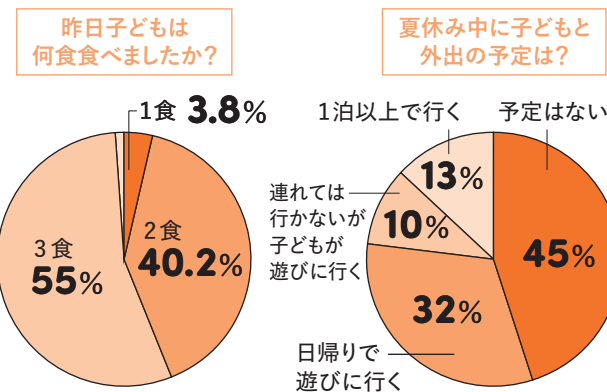
過去100年で最も暑い夏、給食のない夏休み、物価高の三重苦がひとり親とその子どもたちにどのような影響を与えているのでしょうか。8月2日～6日、20歳以下の子どもを持つメールマガジン会員に緊急アンケートを実施。684人から回答がありました。

政府は3人以上の子どもを持つ多子世帯に児童手当や児童扶養手当を増額する方針を出していましたが、8割以上が対象外でした。

7月の就労収入の平均は12万4000円でした。家族全員分の1ヶ月の食費は「2～3万円」が最多で196人。次いで「1～2万円」が146人、「3～4万円」が134人、「1万円未満」も41人いました。

「昨日、子ども（複数いる場合は末子）は何食食べましたか？」という問いでは、「1食」が3.8%、「2食」が40.2%。「電気代の節約でエアコン使用を控えようと思う」人は8割。夏休み中、子どもを連れて遊びに行く予定がない家庭が45%にのぼりました。

【酷暑と物価高の夏休み (n=684)】



不登校が就労の制約に～冬調査～

ひとり親の就労状況と年末年始の家計逼迫を明らかにするため、12月12日～17日、メールマガジン会員を対象にWEBアンケートを行い、20歳以下のお子さんがいる2393人から回答を得ました。

11月中に収入を伴う仕事をした人は85%、うち13%は2つ以上の仕事をしていました。雇用形態はパートが37%、正社員等34%、派遣社員とアルバイト・契約社員がそれぞれ7%、非常勤職員が3%でした。

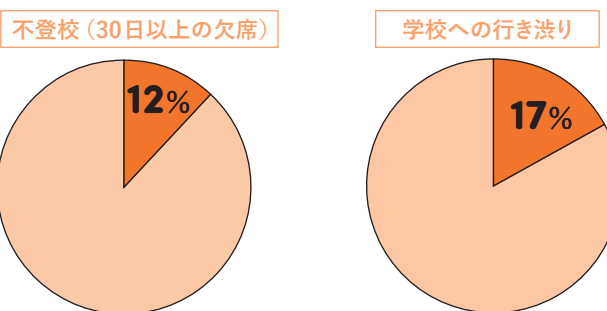
仕事をする上で制約となっていること（複数回答）は、「親自身の病気、心身の不調」「子どもの病気、心身の不調」がそれぞれ3割いました。

児童扶養手当や給付金、奨学金のために、所得制限を考慮して就労収入を抑えたことがあるのは26%。その際の上限は、住民税非課税ライン（年収204万円）が38%、児童扶養手当全部支給（年収160万円）が24%、児童扶養手当一部支給（年収365万円）が14%でした。

子どもの状況で心配なこと（複数回答）では「不登校（年間30日以上欠席）」が12%、「学校への行き渋り」が17%に見られました。

文部科学省調査（2022年）の、小中学生の不登校率3.2%に比べ高い割合です。子どもの状況に対応するために、親が「仕事を休んだ」（38%）、「短時間の仕事に変わった」（11%）、「仕事を辞めざるを得なかった」（10%）など就労にも影響が出ていました。

【お子さんの状況で心配なこと (n=2494)】



小中学校の在籍児童・生徒に占める不登校の割合は3.2% (2022年度、文部科学省調査)

2023冬ひとり親家庭生活就労調査

政策提言

子どもの貧困対策関連

院内集会「子どもの貧困対策推進法10周年」

子どもの貧困対策推進法の成立からちょうど10年になるのを記念して2023年6月19日、参議院議員会館でしんぐるまざあず・ふぉーらむ、シングルマザーサポート団体全国協議会を含む、子ども子育て支援に取り組む16団体が集会を開き、困難を抱える子ども・若者への施策拡充を訴えました。



記者会見「児童扶養手当の増額と所得制限の緩和を」



2024年度の予算要望の一環として、シングルマザーサポート団体全国協議会など4団体で2023年12月11日、厚生労働省で記者会見を開き、児童扶養手当の増額と所得制限の緩和を訴えました。

残念ながら、児童扶養手当の増額は3人目以降の多子加算の増額と所得制限の緩和（全部支給190万円、一部支給385万円）にとどまりました。

こども大綱・こども基本法関連

こども家庭庁こどもの貧困対策・ひとり親家庭支援部会

理事長の赤石が委員として参加。こども大綱やこども基本法のたたき台を検討し、ひとり親家庭の子どもたちの実情を反映し、支援につながるように修正案を提出しました。

民法改正関連

記者会見「共同親権に子どもの居所指定権を含めないで」

離婚後の共同親権で、親権に子どもの居所指定権が含まれていることから、DVや虐待の被害者を危険にさらす危険性について広く知ってもらおうと、全国女性シェルターネッ

ト、Safe Parents Japan、フローレンスの3団体と共に2023年5月23日、東京都内で合同記者会見を開きました。

記者会見「離婚後共同親権から子どもたちを守ろう」



離婚後の共同親権を可能にする民法改正の要綱案が、法制審議会家族法制部会にて賛成多数でまとまったのを受け、2024年1月30日、当事者や支援団体、弁護士有志でつくる「『離婚後共同親権』から子どもを守る実行委員会」とともに、DV被害者が守られなくなる危険性などを訴えました。同日、法制審議会終了後には、理事長の赤石が戒民江・お茶の水大名譽教授と記者会見を開き、要綱案に反対した理由を説明しました。

メールマガジンの発行

1万1000人

会員向けのメールマガジンを無料で月3回発行しています。しんぐるまざあず・ふぉーらむ主催のママカフェや講座の案内、食料支援や新入学お祝い金の募集、企業や他団体の奨学金・給付金やイベント招待など、ひとり親の暮らしを支える様々な情報をお届けしています。

メールマガジンの登録者数は1万1343人（2024年3月末

現在）と前年度より2000人以上増えました。今後は求人情報なども掲載していきます。

サポーターや寄付者、メディアのみなさまに向けた「サポーターメルマガ」も月1回発行しています。こちらは支援者向け講座の案内や月々の活動報告を掲載しています。

子育てシングルの応援サイト『イーヨ』

2020年に開設した子育てシングルの応援サイトです。2023年度は会員から体験談やミニ体験談を募集し、特集「私を救ってくれた言葉」（18本）、「あなたへのエール」（9本）にまとめました。親しみやすく信頼できる情報をネットで

提供するの狙い。マンガやイラストを駆使した情報は読みやすく、共感を呼び、「シングルマザー」のワード検索では常に上位に上がってくるサイトです。



教育費サポートブック

教育費はいくらぐらいかかるの？ どうやって捻出したらいいの？

そんな疑問に答え、支援制度などの正確な情報を伝える冊子です。子どもが希望する進学先をあきらめなくてもよい状況をつくりたいと刊行しています。

国や自治体の教育費支援制度、大学進学を助ける高等教育修学支援新制度、官民の奨学金などの情報を最新にアップデートしました。子どもだけでなく、親の学び直し（リスキリング）の支援策や体験談も掲載しています。

5800冊を増刷し、公益財団法人神奈川ゆめ社会福祉財団、パルシステム共済生活協同組合連合会ほか、さまざまな団体が活用。PDFはホームページから無料ダウンロードができるようにしました。



SMSC から JSPF(ひとり親サポート団体全国協議会)へ

全国のシングルマザー支援団体でつくる「シングルマザーサポート団体全国協議会 (SMSC)」は、7月に石川県金沢市で全国大会を開催。その後、シャネル財団の支援を受け、「ひとり親家庭サポート団体全国協議会 (JSPF)」として法人設立総会を開き、東京都に特定非営利活動法人の申請をし、認証

されました。

しんぐるまざあず・ふぉーらむはこの事務局のサポートをしています。

2024年3月時点で33の団体が加盟しています。



だじょうぶだよ! 基金 第6次助成金

しんぐるまざあず・ふぉーらむ独自の基金事業です。全国各地でひとり親世帯を支援する団体に助成を行い、ひとり親と子どもたちが全国で持続的に支援が受けられる体制を目指しています。

2023年8月に第6次募集を行い、応募26団体の中から審査委員会でひとり親の相談、交流事業や学童保育、訪問保育

などを手がける17団体を選出。総計1353万円を助成しました。

また2024年1月1日に発生した能登半島地震の被災地で活動する団体に、臨時募集を行い、「制服バンクいしかわ」「NPO法人シンママ応援団」の2団体に計96万円を助成しました。

こども家庭庁「ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業」

こども家庭庁から中間支援法人として委託を受け、ひとり親世帯をはじめとする要支援世帯に対し、こども食堂やこども宅食、フードパントリー等の食料支援を実施する支援団体

を選出。助成を行いました。2023年度は7月20日～翌1月31日、24団体に総計5334万8000円を助成しました。

新監事紹介と基盤強化

しんぐるまざあず・ふぉーらむは会計不正問題に関する第三者調査委員会の提言を受け、再発防止のための団体の基盤強化に取り組んでいます。

2024年7月より、新監事に樋口哲朗さんをお迎えすることになりました。

会計については、工数管理システムの構築や専門家によるアドバイザーチームの設置を進めています。

また、外部の有識者も招いた委員会を発足させ、経営基盤

樋口哲朗 新監事

樋口公認会計士事務所代表。上場企業、ベンチャー企業などの社外監査役・会計顧問、監査法人、税理士法人でのアドバイザー、NPOでの監事を務める。

強化プロジェクトを開始しました。職員を対象にした研修「中期ビジョンと再発防止策の実行計画」も開催しました。引き続き職員も積極的に参加し、取り組みを進めてまいります。

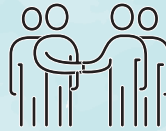
寄付者サポーターの声

しんぐるまざあず・ぽーらむの理念と長年のご活動に共感し、敬意を抱いております。昨年の出来事はまことに残念でしたが、この教訓を糧に支援組織としてさらに一回り成長され、ひとり親さんとお子さんたちにとっていっそう心強い拠りどころとなられますように。私も陰ながら応援してまいります。(東京都・勝守真知子さん)

シングルマザーのみなさんへ。苦しいときって誰にでもある。私の場合、「助けてください」と言える勇気があるから救われている。苦しいとき、周囲に言えるようにしましょう。誰かが手を差し伸べてくれると信じよう。(東京都・再就職した元専業主婦 薄井シンシアさん)

今回の不祥事はとても残念ですが今まで40年以上に渡る草の根支援から行政を動かしての法制化まで、多くのシングルマザー家庭が救われてきたことには変わりはありません。そして今さらに必要とされています。逆風の中、信頼回復には長い時間がかかると思いますがこれからも応援していきたいと思っております。(大阪府・男性)

子育てしながら、お金も稼いでいるシングルママ様。育児と仕事を一人でやってスゴすぎる!! 本当に尊敬! 家事もして、子供のお世話もして、外でも働いて、もう「エライ!!」のひとこと。どうぞ、時には無理矢理にでも、ご自分の心と体を労わってくださいませ♡ 120%頑張っているシングルママに、少しでも役立ったら嬉しいです。」(横浜市・千葉ひろみさん)



シングルマザーと子どもたちの声

<ほっとあんしん便の感想>

子どもは食べ盛りなので、いつもお腹が空いています。いつもご飯のお代わりが言えなくて、モジモジしている時があり、気付いたとき声を掛けると「いいや」と言うのですが、支援でストックがあるのが分かって「ある? いい?」とお茶碗を差しだしてきました。(Aさん)

<新入学お祝い金の感想>

僕は大好きな野球を続けるためにスポーツ推薦で高校に進学しました。野球はとてもお金が掛かるスポーツです。お祝い金で新しいグローブを買ってもらいました。ありがとうございました。(高校生Dさん)

<親子イベントに参加して>

子どもたちが楽しんで遊べました。自分一人では子ども2人を連れて行ってアスレチックはできないところ、お手伝いがあったので2組に分かれて行動もでき、助かりました。(Hさん)

<親子イベントに参加して>

初対面にも関わらず、皆さんが優しくフレンドリーに接してくださったので、とてもとても楽しかったです。下山の頃の体力を、少し心配していましたが、ずっとハイペースに張り切っていて親の方がびくりました。親子2人でたまたまやはり険しい山道だなぁと思うところもあったので、参加させていただいて、安心して楽しめました。(Gさん)

<新入学お祝いランドセルを受けて>

私の疾病で仕事に就いておらず家計も厳しく、今年のクリスマスプレゼントどうしようと思っていたところにランドセルが届きました! 「わぁ! おおきなプレゼントがおいてある?! ママあけていい?」と嬉しそうに箱を開けて、ランドセルが見えると「わぁ?! ランドセルだぁ!」と最高の笑顔で取り出し、背負うと「サンタさんありがとう! しょうがくせいになったらおべんきょうがんばります!」とニコニコしていました! 息子にはランドセル、私は息子の笑顔というプレゼントを頂きました!(Fさん)

<高卒認定試験に合格して>

高2の子どもよりも早く高卒認定が取りたいとずっと思っていたので、その夢が叶えられてよかったです。3人の子どもを育てながらの勉強は時間との闘いでしたが、合格してからは求人サイトを見ても「ここ、行ける」「ここも行けるんだ」と視野がふわっと広がり、自信が付きました。子どもにも「お母さん、やるじゃん!」と認めてもらえました。(Iさん)

協力企業・団体

◎ご寄付 (五十音順)

- アマゾンジャパン合同会社
- 一般社団法人東京アメリカンクラブ
- MS&AD ゆにぞんスマイルクラブ
- 荻蔵コンサルティング株式会社
- Ojigi Bunny Inc.
- 高知缶詰株式会社
- 三栄製菓株式会社
- 株式会社セゾンテクノロジー
(旧 株式会社セゾン情報システムズ)
- 株式会社セブン&アイ・ホールディングス
- 大和証券グループ
- デッカーズジャパン合同会社
- ニットキュア株式会社
- パスファインダーズ株式会社
- ヒューリック株式会社
- フレックス株式会社
- 株式会社マリッシュ
- 三菱UFJ モルガン・スタンレー証券株式会社

◎物品のご寄付 (五十音順)

- 株式会社アイモバイル・ふるなび
- 株式会社あかね書房
- 株式会社あすなろ書房
- 株式会社アトリエはるか
- 株式会社イマジンネクスト
- 株式会社岩崎書店
- うさぎ出版株式会社
- エフエムジー&ミッション株式会社
- 江崎グリコ株式会社
- エスピー食品株式会社
- オイシックス・ラ・大地株式会社
- 株式会社カタログハウス
- カルビー株式会社
- ケンゾー エステイト
ワイナリー ジャパン株式会社
- 株式会社小学館
- ジョンソン・エンド・ジョンソン
日本法人グループ

- 株式会社スタッフサービス
- 認定NPO法人
セカンドハーベスト・ジャパン
- NPO法人チャリティーサンタ
- 東京麹町ロータリークラブ
- 日本証券業協会
こどもサポート証券ネット
(岡三証券株式会社)
- 一般社団法人 バンクフォースマイルズ
- 株式会社ファンケル
- mima株式会社
- NuLAND<ニューランド>販売会社
(合) 合同会社RANAOS
- ロート製薬株式会社

◎助成金/補助金 (五十音順)

- こども家庭庁ひとり親家庭等の
子どもの食事等支援事業

◎受託事業 (五十音順)

- 埼玉県男女共同参画推進センター
- 一般社団法人生活サポート基金
- 神奈川県茅ヶ崎市
- 株式会社東京スター銀行
- 東京都ひとり親家庭支援センター
- 内閣府
- 日本ロレアル株式会社

◎協力 (五十音順)

- 公益財団法人あすのば
- 株式会社 Violet
- NPO法人 ETIC.
- 認定NPO法人おてらおやつクラブ
- オレンジフラッグ
- 公益財団法人 神奈川ゆめ社会福祉財団
- 特定非営利活動法人キッズドア
- 株式会社 KM ユナイテッド
- 国際ソロプチミスト東京一銀座
- 国際ソロプチミスト東京一弥生
- ココネット株式会社
- 特定非営利活動法人セイエン
- 一般財団法人主婦会館
- 公益財団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパン
- 公益財団法人東京子ども子育て応援団
- 一般社団法人栃木県若年者支援機構
- トランスコスモス株式会社
- バルシステム共済生活協同組合連合会
- 埼玉県富士見市子ども未来応援センター
- 認定特定非営利活動法人フローレンス
- 緑と農の体験塾
- 学校法人山野学苑山野美容専門学校

ほかにもたくさんの方の企業・団体、個人の寄付者の方にご支援・ご協力をいただきました。心からお礼申し上げます。

『しんぐるまざあず・ふぉーらむ のこれまでとこれから』

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン代表理事・今井悠介さん × NPO法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ 理事・小森雅子

子どものためのイベントが親の自信にもつながる

小森: このたびは「体験格差」の出版おめでとうございます。当団体の支援とも重なるところがあるなと思って読ませていただきました。

今井: ありがとうございます。家庭の経済状況によって、子どもたちの体験に格差が生まれているというのは、10年以上前から言葉では言われてきましたが、なかなか世の中に伝わらない。食事を届けようとか、学習支援、就労支援というのは分かりやすいのですが、「体験」というのはつかみどころがなく伝わらづらいんです。

しんぐるまざあず・ふぉーらむの体験支援は どんなことをされていますか？

小森: 親子イベントで、夏休みに山にいったり、川遊びをしたり。芋掘りなどの収穫体験もしてきました。近年では、バーベキューやプールにも行きます。

今井: 子どもの体験の不足や格差をどのように感じていますか？

小森: 夏休み前になると「うちはどこにも連れて行ってあげられません」という声がひとり親からよく届きます。お子さんもつらいけど、親も「何も体験させてあげられない」と自己肯定感が下がってしまう。お子さんのためのイベントなんだけど、親にとっても自信になるし、うれしいというのを感じますね。

みんなができなかったコロナ期を経て、物価高で広がった格差

今井: コロナ禍に続く物価高騰がありました。子どもたちへの影響を感じることはありますか？

小森: コロナ禍は、みんなが出かけられなかった。その時のつらさもあつたけど、コロナ明けは一部のみに影響が続きました。物価高で体験の機会も失われがちですが、お菓子を買ってあげられないという声が多く届いています。

コロナ禍の時、コミュニケーションに不安があるお子さんの姿が見えてきた。そういう子どもたちには体験活動や対面でご飯を食べることなどが大事なので、取り戻して欲しいなと思います。

今井: 苦労している点はありますか？

小森: 首都圏に集中してしまう点でしょうか？ 連携している全国各地の団体でもイベントをしているのですが、全体から見るとごく一部。うちの地域ではやっていないという声がよく届



きます。

昨年は金融系の企業に子どもたちを連れて会社訪問をしたのですが、たいへん好評でした。子どもたちのロールモデルが見つかるというんですね。お母さんたちも大きな会社で正社員で働く姿が浮かばないことが多い。こういう体験もいいものだなと思いました。

今井: 体験の意味の一つにロールモデルと出会うということがありますよね。うちの団体でも大学生のボランティアが子どもたちと定期的に面談しています。大学生に限らず、今まで出会ってきた人と違う種類の人と出会い、数年先にこういう道があるんだなと選択肢が広がるんですね。逆に、体験を阻害している要因ってどんなことがあると思いますか？

小森: お母さんたちに自信がない。うちの子を連れて行って迷惑をかけてしまうのではないかと、と一歩が踏み出せない人もいます。

今井: お子さんに障害があるからと、出かける場所を制限してしまっていることがありますね。これは、社会の目の方を変えて行かなければいけない。

時間的な制約もありますか？ 送迎ができないとか。

小森: マンパワーは圧倒的に足りてないですね。子どもが複数いて、下の子たちを連れてお兄ちゃんのキャンプに行くのは大変。一度イベントを体験すると、楽しさやボランティアに頼っていいとわかるんですが、その一歩が踏み出せない人がいる。初心者向けのイベントがあってもいいと思います。

今井: 最初の一歩は難しいですよ。僕たちの団体だと、コーディネーターが事前にご家庭と面談して、担当の学生やイベントとつないでいっています。さらに、学童保育や児童館など子どもが日常に参加している中に、体験プログラムがあるというようにしていくと気軽に参加しやすくなるのかなと思っています。

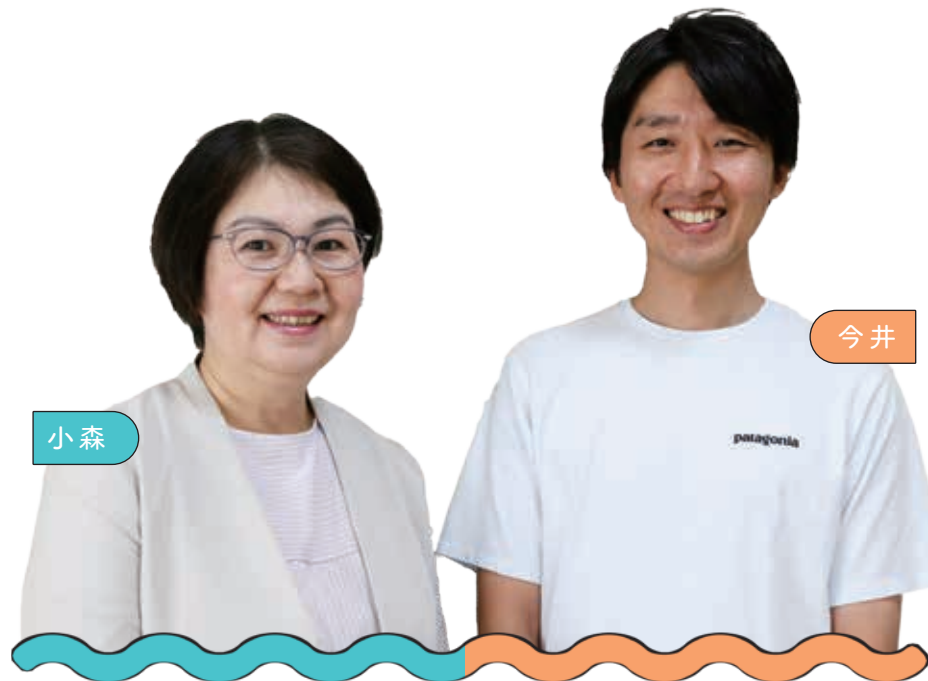
新入学祝い金、食料支援、就労支援を多彩に展開

今井: 子ども達の育ちを保障するための生活支援もしていらっしゃいますか？

小森: 「新入学祝い金」は2015年に始めました。入学前にお金がかかるのに、就学援助などの公的支援は入学の半年後に振り込まれることが多い。そこを埋めようという趣旨です。

今井: 「祝い」というタイミングで行うことにメッセージとして意味がありますよね。

食料支援はコロナで増えたんですか？



小森

今井

小森: コロナ前の数十世帯から、一気に数千世帯になりました。今年は隔月で3300世帯を支援しています。基本はお米5kgと物品寄付をいただいた食品、お菓子などを送っています。物価高でさらに生活が苦しい人が増えているので、今後を検討しているところです。

今井: それはすごいですね。ほかにはどんな支援を？

小森: 就労支援は2016年に始めました。お母さんのエンパワーメントから仕事の探し方まで10回前後の対面の講座を開いていたのですが、コロナ禍で全部オンラインになったんです。オンラインの良さもあって、遠方の方が参加できる。今はオンラインと対面の両方でやっています。ニーズは様々です。正社員で働いているけれども、副業・転職を希望する人。パートから正社員を目指したい人。無業だけれど生活保護から抜け出したい人。最近離婚や死別を経験し、専業主婦から就職を目指す人もいます。

今井: 就労支援の財源は？

小森: 企業からの寄付と委託事業です。東京都ひとり親家庭支援センター「はあと」の事業も受託しています。

ひとり親家庭が対象だから安心して相談できるという人が多いです。仕事探しの上でも「採用面接でひとり親家庭と言ったら不利になるのか」、「別居中で、もうすぐ離婚する。配偶者の有無はどちらに○をしたらいいのか」など、色んなハードルがあるんですね。

もう一つの特徴はメンターがいることです。個別に30分ずつ面談してもらうなど工夫しています。講座に対する疑問点や心配

なこと、家族の愚痴なども聞く。すると、より馴染んで安心出来る場だということが浸透していってますね。パソコンのMOS検定の合格率も高くなりました。

今井: 僕たちも子どもの学習支援や体験支援で、大学生が定期的に面談するようにしています。子どもたちも年齢が近いので、話がしやすいようです。

44年間の活動のいいところを残しつつ、時代の先を読んでいけたら

今井: しんぐるまざあず・ふぉーらむは活動開始から44年。小森さんはいつから参加されているのですか？

小森: 8年前にボランティア登録をして、5年前にスタッフとして採用されました。私は子どもが2歳の時に離婚し、派遣社員として働きながら、病児保育所を作る市民運動に関わってきたんです。その後、千葉県船橋市の市議を2期やりまして、社会福



祉士の資格を取って、こちらに来ました。

私もシングルマザーの当事者なので、自信をなくしがちであることや、収入アップができない歯がゆさを感じてきたので、そういう方のお手伝いできたらと思います。

今井: 昨年、会計不正を公表され、認定NPOではなくなりました。それを踏まえて今後、どのような活動を目指されるのでしょうか？

小森: 入職した時は、私が3人目の職員だったんです。その後、コロナでひとり親家庭の困窮が極まったことが報道されて寄付が増え、社会的な役割も人員も急拡大し、組織基盤の強化が後回しになってしまった。それが端的に表れたのが、会計不正だったと思っています。いま、職員が一丸となって基盤強化に取り組んでいるところです。

寄付が減って、事業の継続が難しいところはありますが、受益者になるべく影響が出ないように、がんばっていきたく。

社会の動きが速いので、常に情報をキャッチして新しいニーズを見つけ、時代の先を行くことが重要かなと思っています。首都圏では「リスクリング」など就労支援事業が盛んになっていますが、その中で取り残されがちの人に寄り添った支援ができていのかどうか、自己点検しながら進んでいる感じです。

44年間の活動のいいところを残しつつ、時代の先を読んでいくことができたらいいなと思っています。

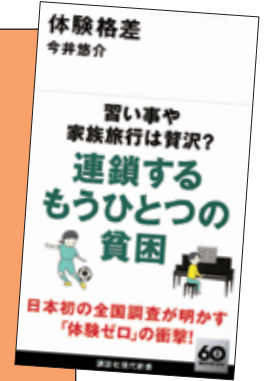
今井さんの今後の活動は？

今井: 僕たちのミッションは「多様な学びをすべての子ども達に」です。体験を通して、ロールモデルを提示するなど、子ども達が自ら学んでいけるような環境を目指したいと思っています。自分達だけでは、できないことがたくさんある。親子が抱えている生活の課題、就労の課題などがある中、自分たちだけでできることは限られているので、色々なNPOと連携していきたいと思っています。

小森: 私たちも、ボランティア研修などで連携できると嬉しいです。本日はありがとうございました。

今井悠介 (いまい・ゆうすけ)

公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン(CFC) 代表理事。1986年兵庫県生まれ。小学生で阪神大震災を経験し、学生時代に不登校の子どもへの支援や体験活動にかかわる。2011年、CFCを設立。これまでに6000人以上の生活困窮家庭の子どもへの学びを支援。2021年から体験格差解消を目指し、「子どもの体験奨学金事業」を全国展開している。著書に「体験格差」(講談社現代新書)。



ご寄付のお願い

しんぐるまざあず・ふぉーらむの活動はみなさまのご寄付に支えられています。

4,000円のご寄付で

ひとり親1家庭に1回の食料パッケージをお届けできます（梱包、配送、倉庫代含む）。

50,000円集まれば

ひとり親家庭の新入学の高校生一人に新入学祝い金を贈ることができます。

30万円集まれば

1年間、ひとり親家庭への緊急支援を提供できます（前年度実績）。

（税額の控除は受けられません）

今すぐ支援

● 郵便局の郵便振替用紙で（同封）

● 銀行振込で

三菱 UFJ 銀行

高田馬場駅前支店

口座番号 普通 4536336

特定非営利活動法人しんぐるまざあずふぉーらむ

ゆうちょ銀行

〇一九（ゼロイチキュウ）店（店番 019）

口座番号 当座 0152781

NPO 法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

※ 銀行振込みの前にホームページにある<寄付申込フォーム>にご入力いただくか、ファックスまたはメール添付でお名前・ご住所等をお知らせください。

寄付申込フォーム⇒

FAX：03-3239-6590

メール：supporter@single-mama.com



● クレジットカードもご利用いただけます。

マンスリーサポーター（毎月支援）

毎月一定額をご寄付いただき、活動をご支援いただく制度です。
クレジットカード、ゆうちょ銀行自動払込をご利用いただけます。

ホームページの「寄付のお願い」をご覧ください。
URL：https://www.single-mama.com/donation/



特定非営利活動法人しんぐるまざあず・ふぉーらむ

102-0072 東京都千代田区飯田橋1-8-9 ニューシティハイツ飯田橋402

Tel：03-3263-1519 fax：03-3239-6590

Mail：info@single-mama.com URL：https://www.single-mama.com

single
mothers
for m

しんぐるまざあず・ふぉーらむ